広報おおえ

迎春

葉牡丹門松で幸せな新年を

新年を素敵な花とともに迎えてもらえればと、総合福祉施設らふらんす大江で門松風のフラワーアレンジメントの制作がおこなわれました。障がい者通所事業所で働く皆さんが、同施設で育てられた葉牡丹を材料にしながら、一つ一つ丁寧に作り上げました。

平成２６年
1
No.635

平成26年 新春のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。平成26年が、皆さまお一人お一人の思いが果たされる年になりますよう、ご祈念申し上げます。

道路で車を止めると、道路を渡り終えた「大江の子どもたち」は、頭をペコリと下げて、通り過ぎていきます。日常の中で見られる子どもたちの行動には、地域社会の精神が映しだされていると言えます。一つ一つの積み重ねの中で脈々と受け継がれてきた「教え」は、子どもたちの心の中に息づいており、今日も新しい太陽の光を浴び、明日へと向かっています。「思い」が明るければ「行い」は時に苦しいかもしれませんが、夢は必ず果たされるものと信じております。

災害に備え、強い町に

昨年7月18日の記録的な大雨は、大江町に甚大な被害をもたらしました。昭和51年に発生した8・6水害以後の「想定」が「想定外」となったのは、「水量」だけを水害の原因にし「水流」を甘く見たからだと指摘されています。河川、農地、道路、傾斜地、用水路を激しい「水流」が洗掘し被害を大きくしています。幸いにも「あきらめない強い心」で、祖先伝来の土地を守る復旧が広範に進められ、先が見通せるようになっています。「忘れたころにやってくる災害」は、人知を尽くしても、盤石完璧な防止策はないと言われています。さらに近年は気象災害が、異常に局所的で予測も難しくなっています。災害に強い町は「災害前後」に強い町です。無駄とは思わず備えをしっかりしていかなければなりません。

重要文化的景観

「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」が、山形県で1番目、東北で3番目、全国では35番目に文化庁から「重要文化的景観」として選定されました。楯山公園から見おろす景観は言わずもがな、私たちが普段生活している空間と構成物が「重要かつ文化的」と認定され、「ただならぬ町」と認証されました。表に現れている「景観」を生み出してきた「精神」が「重要かつ文化的」なのであります。高くて強い「精神力」がなければ、果たしえなかったものであります。先人の今に至る「営みの力」に勇気をいただきました。

新しき力

大規模化、国際競争力、技術革新、言葉は違っていても、もはや「世界は一つ」と感じることが多々あります。商業・工業・農業…は、「世界情勢」抜きには考えられない時代です。地球上の一点たる大江町、平場が少ない、いわゆる中山間地、「業」として焦点化すべきは何か真剣に議論する時期になっています。

魅力ある町

引きつける町、行ってみたい町、暮らしてみようと思うような町、魅力ある大江町。町民皆さまの力が実り、昨年2つの住宅団地が完売しました。先人がこつこつと醸成してきた「町と町民」に、素晴らしい魅力があったからこそ達成できたものであります。改めて関係各位に感謝申し上げます。今年は「新たな宅地造成事業」に向けた取り組みをはじめ、町内外からの友人を待てる新しい年にしたいものであります。

きらやか銀行さんから、土地と建物のご寄贈を受けました。「町の振興のためにお使いください」との趣意でありました。紙面を借りて町民共々衷心（ちゅうしん）より感謝申し上げます。大切に活用させていただきます。これをきっかけに、商店街の皆さまをはじめ、各種団体の皆さんから新しい視点での利活用の「提言」をいただければ幸いであります。

重要文化的景観　清野家

さらに素敵に

中央公民館が、地震に耐えられないぐらいに古くなりました。町民の諸活動の重要な拠点として、長い間利用されてきましたが、新しく建設する計画を検討します。テルメ柏陵健康温泉館の木風呂が6月までに完成します。藤田大明神線の開通により工業団地のアクセスも格段に良くなりました。七軒西小学校は、宿泊可能な施設に生まれ変わり、各種団体の合宿研修の場や、交流人口の地区の拠点として、利用できるようになります。何が必要で、何が不要になっているか、町民の皆さまのご指導が必要であります。

町民主役

国、県、町の中で、楽しいことや苦しいことを受けるのも、魅力あふれる町をつくるのも、「主役」は町民お一人お一人であります。楽しいことや、嬉しいことは出来るだけ長く、暗くて悲しいことは短い時間に、協力しあい、譲りあい、助け合い、友達力を信じて、新しい年を乗り切っていきたいものであります。すばらしい年になりますようにお祈り申し上げます。

大江町長
渡邉兵吾

平成26年

新春座談会

～「若者と語る未来の大江町」～

人口の減少や少子高齢化がすすむ大江町には、将来町を背負っていく若者たちの力が何よりも必要です。

今回「若者と語る未来の大江町」と題して、各分野で活躍されている町内在住の若者4人と渡邉町長による新春座談会を開催しました。参加した若者は大江町を盛り上げようと、各分野で活動されている方々です。大江の若者は今の大江町にどのような想いを持ち、どうあるべきと感じているのか、渡邉町長と膝を交えながら率直な思いを語ってもらいました。

それぞれの活動を通じて

町長　日頃町のためにさまざまな活動を通して、町を元気にしていただいていることに対し、心から御礼を申し上げます。

大江町の人口は現在約9千人です。私は、その全員がこれからどのような町をつくって、もしくはつくっていくために一人一人がどのような形で参加し、将来の世代にバトンを渡せるかが重要だと思っています。

中でも、若い人が中心になって進めていく町でないと、町として力が出ないと考えています。そのような意味で、今日集まっていただいた4人の方々からは色々とご意見いただければと思います。

町長　私が若かったころに自分を捉えた言葉に、ピストルの引き金＝トリガーという言葉があります。「きっかけ」という意味です。阿部さんの場合はフリーマーケットをやってみたい、庄司さんは地元を大切にしたい、家業を続けていきたい、石坂さんは社会の暖かさ、町の魅力を紹介したい、土田さんも最初は実家の売上げを増やしたい…さまざまな「きっかけ」の中で、皆さんに共通しているのは大きく言えば人との交流です。交流を通じてどのように感じましたか。

庄司　音楽イベントや大頭森山の山歩き、山を舞台にしたワークショップをおこなっています。大頭森山は

林業で地産地消の仕組みをつくっていきたい

庄司　樹 さん（中沢口）

東京で劇場映画の助監督を経験。震災をきっかけに実家の庄司林業を継ぐ。山の生業、魅力を活用して地域おこしをする「山業ビジネス＆プロジェクト」を開始。地元の木材を使用した生活雑貨、音響、ファッション、アロマオイルの精製など、山を題材にした数多くの取り組みをおこなっている。現在木質エネルギー事業の立ち上げも検討中。

道海を舞台した音楽イベント（ＣＢＪ）も開催しており、町外のみならず海外などからも約400人が参加する。

歩きやすく眺めも良いため、評判がよく「また今年もいきたい」というリクエストが春から寄せられます。こんなに人から感動してもらえるものが地元七軒地区にある。その様子を目の当たりにした時、自然と町に誇りが沸いてきました。また音楽イベントで毎年、巨大キャンプファイヤーをおこなっているのですが、あれだけの大きさの火を見る機会が日常ほとんどないので、海外の友だちもすごく喜んでくれます。あれが毎年みんな集まってくれる一つの要因になっているとも感じています。

石坂　最初地域おこし協力隊として赴任した時、名刺に「何々の町、大江町」と入れようとした時、何を入れればよいか迷いました。大江町にはスモモ、西山杉、舟唄、文化的景観、青苧…何でもあります。それを一つに絞ってそれ以外を切ってしまうのはもったいないと思いました。町民の皆さんがそれぞれの分野で頑張っているので、それを町内外に紹介したいと思っています。

阿部　うまいもの市では毎回、射的や水ヨーヨーなどの露店を出店しています。昭和の家財道具や、映画のポスターなどを飾った時もあり、小さい子どもたち以外にも40代ぐらいのお父さんたちが、すっごく目をキラキラさせて「なつかし～」と言ってもらえてそれがすごくうれしかったことを覚えています。なかなかその世代の方から喜んでもらえることがなかったので…。活動を通じていろいろな世代の方と交流でき、自分の視野が広がるきっかけにもなりました。

土田　何を実行するにも、人からどれだけ注目されるかが重要だと感じています。その上で僕の場合は、常に新しいことをやりたいと思っています。まず3年間いろんなことにチャレンジしてだめだったら実家の仕事に集中しようかなと。今やりたいことをグッと凝縮して、可能な限り実行していきたいですね。

魅力的な町づくりに必要なこと

町長　皆さんが活動している、もしくはこれから実施していく中で、町、行政に対して、ここだけは協力してほしいというようなことはありませんか。

庄司　大江町は他の市町村と違ってスーパーやホームセンターがありません。多くの方がそれは不便だと思っているかもしれませんが、発想を転換すると、地産地消が成立させられる好条件になっていると思って

魅力を掘り起し、町おこしのきっかけに

石坂　康平 さん（柳川平）

神奈川県横浜市出身。平成24年に緑のふるさと協力隊として大江町に赴任し主に農業に従事。昨年からは大江町地域おこし協力隊として七軒地区を拠点に地域おこし活動に取り組む。

昨年11月には、これまで出会った町民や町の魅力を一つまとめた動画「大江町の魅力発見ＶＴＲ」を作成。映画「人生、いろどり」の上映会とあわせて公開され、当日会場には約1000人の方が訪れた。

みんな楽しいこと、新しいことを求めています
土田　清隆 さん（木の沢）

実家のレストラン「桃花水」を手伝いながら活動するシンガー・ソングライター、愛称は「kiyo」。

２年前「桃花水」で若者向けのパーティーを企画したことをきっかけに「山形を熱くしよう！プロジェクト」を立ち上げ、音楽フェスや復興支援ライブ、街コンなど、地域を元気にするさまざまな活動に取り組んでいる。

作曲や出張ライブもおこなっており、この２年間のライブ数は150を数える。

います。金物屋さんや、八百屋さん、魚屋さん、精肉店さんなど一通りの商店はありますし、地域通貨のキラキラポイントもあります。「地元で買い物していいことがあるよ」と町を挙げてＰＲし、町内でお金を回す仕組みができないものかと考えています。

石坂　地元の皆さんに「こうすればいいかも」と思わせるようなきっかけづくりが必要なのかなと思います。現在町には、地域おこしなどの活動を支援する補助金があり、かなり活用はされていますが、補助金だけでは各団体に「主体性を持って地域おこししてください」といってもなかなか動いてはもらえないと思います。主体性をもって動くきっかけを作っていくことが、町に求められているのだと思います。

阿部　みんな何かしたいという気持ちはあるのですが、何をしてよいのか分からないのだと思います。

個人的にやってみたいと思っていることは「学園祭」です。今、町内にある廃校の小学校を使って学園祭をしたいですね。大人になるとなかなか学園祭に参加しにくいです。でもあの雰囲気はワクワクします。それぞれの手づくりのお店があり、夜はライブなどのイベントもあります。それを廃校になった学校を利用してできないかなと思っています。現役の頃はテストや、勉強などであまり気づかなかったですが、学校は友達がいて、部活もあるので楽しかったです。だから、校舎がそのままになっているのがもったいないなと感じています。

土田　僕の両親のレストランは売上が伸び悩んでいました。それに対して僕が一昨年にパーティーを始めた頃から、お店は毎月、前年度の売上より15パーセント以上増えたんです。僕は調理場に入っていません。ただメニューの見直しや、外に手書きのペイント看板を立てるなどのアイディアを出しただけです。なにか新しいこと、楽しいことに対する興味は誰にでもあるので、何もしないより何かを実行した方が人は来てくれます。今、お店に来てくれるお客様がなぜ来てくれるのかより、来てくれないお客様が来てくれるにはどうするかを考える、それはサービス業にかかわらず町でも同じだと思います。なぜ大江町に人がたくさん来てくれないのか、住んでくれないのかその理由を見つけ、できる限りの方法を試していくことが大事だと思います。

実は「人生いろどり」上映会後の反省会で「大江町ＴＶ」というのを

ワクワクしたいという気持ちはみんなあります
阿部　香菜子 さん（葛沢）

介護老人保健施設景雲荘に勤務。さまざま取り組みを通して若者によるまちづくりをすすめる、大江町若者塾「楽駆笑（らくしょう）」の代表者。

物産味覚まつりでフリーマーケットの出店、うまいもの市で子ども向けに水ヨーヨーなどの縁日の出店や昭和時代の家財道具、映画のポスターなどの展示をおこない共に好評を博した。

よりワクワクする企画を求めて、現在塾生募集中。

勝手に作って、インターネット上で大江町をPRしようという話も出ました。定期的に町のことを紹介する動画を投稿することで視聴者が増え、より多くの方から大江町を注目してもらえると思います。「ふなっしー」も、船橋市や観光物産協会の公認を受けないで自主的にインターネットに投稿し始めたら一気に人気がでました。

今年はどんな年に？

土田　僕はライブだけでは生き残れないと思っています。ですので、昨年は物産味覚まつりで子どもたち向けの遊びコーナーを設置したり、夏コンという若者のパーティーも開催させていただき、約70人から参加してもらいました。協賛金は僕が1人で呼びかけて集めました。僕は実行委員という言葉がまず堅苦しくてだめなので、自分がやっていることに対して「手伝うよ」と言ってくれる人にお願いする形を取っています。他にもやりたいことがたくさんありすぎて目標というときりがないですね。ただ、町外から大江町に人が来るようにするためには、大江町の中だけで何かしようとしてもだめで、どんどん外に出ていくべきだと思います。自分で言うのもなんですが、ライブの時「大江町のシンガー・ソングライター」と紹介されるので、かなり町外に町の名前をPRしたかなと思っています（笑）。今後もたくさんの人から町を知ってもらえるきっかけ作りをしたいです。

阿部　「楽駆笑（らくしょう）」由来は、メンバーでグループの名前を何にしようかと考えた時に、それぞれ好きな漢字一文字を出し合って組み合わせものです。「とりあえず楽しくてみんな笑ってくれればいいよね」というところからきています。現在グループメンバーは5人ですので、今年の目標はまず仲間集めですね。それと、学園祭をぜひやってみたいです。

庄司　雇用の創出と自然エネルギーの事業を何としても立ち上げたいと思っています。例えば寒河江市や河北町とかと比べると、大江町は林業の資源が豊富です。僕の計算では、灯油や重油、天然ガスの大江町の平成22年の使用料は約29億円です。その10分の1でも自然エネルギーになれば、約3億円のお金が地域だけで回るという事になります。例えば町内の介護施設や公共施設で、地元の木材を使った自然エネルギー事業をおこなうことで、雇用も増えて、町の中でお金が巡るのではないかと考えています。

　Uターン、Iターンの人も地元のお年寄りの方、障がい者の方も働ける場所で働いて、稼いで、将来につなげるという、人と人との区切りを無くして手を取り合っていける社会の一助になればと、そのために何としても立ち上げたいなと思っています。

石坂　今年が僕の活動の集大成だと思っています。その中で今注目しているのが山里留学です。地域の方もその話をする時顔色が違います。昔話として「あの時はね～」とキラキラしながら語ってくれます。地域おこしにつながるような形に作り上げていければと思っています。

　また、今後さまざまな場面で使っていただけるような映像をたくさん撮りたいです。次は、高校生と一緒に重要文化的景観の映像づくりを考えています。重要文化景観は青苧、漆、生糸など七軒からの流れがあっての景観でもあるので、高校生がどんどん七軒地区に入って映像を制作すれば、七軒地区がより皆さんから知ってもらえるのかなと思います。

町長　今日、皆さんの話をお聞きして、大江町にはまだまだ可能性があると思いました。それぞれがきちっと自分と周りを見つめ、その中でいろいろと仕掛けていきたいという思いが、ひしひしと伝わってきて、私自身元気をもらいました。

　皆さんの苦労が報われるような、苦しいことが楽しくなるような、そういう姿勢で大江町もがんばります。今後ともお力をお貸しください。今日はありがとうございました。

輝いて今

様々な分野で活躍され、表彰された町民の方々を紹介します。

秋の叙勲・危険従事者叙勲

秋の叙勲　旭日双光章／地方自治功労

東海林　長三郎さん（楢山）

平成25年秋の叙勲において、元大江町議会副議長の東海林長三郎さんが、地方自治功労として、旭日双光章を受賞されました。

東海林さんは、昭和58年、大江町議会議員に初当選して以来、７期28年にわたり在職されました。総務常任委員会委員長をはじめ各委員長を歴任し、温厚な人柄と優れた指導力により、教育文化の振興、社会福祉の充実、農工商一体の地域産業の振興など町の近代的な自治運営の確立に大きく貢献され、また平成15年９月からは２年間副議長として円滑な議会運営、町政施策の推進に尽力されました。

東海林さんは「数々の町長や議長の下で、やりがいのある議員活動をさせていただきました。賞をもらったことはとても名誉な事です。これまで支えていただいた町民の皆さん一人一人に感謝したいと思います」と受賞の喜びを話してくださいました。

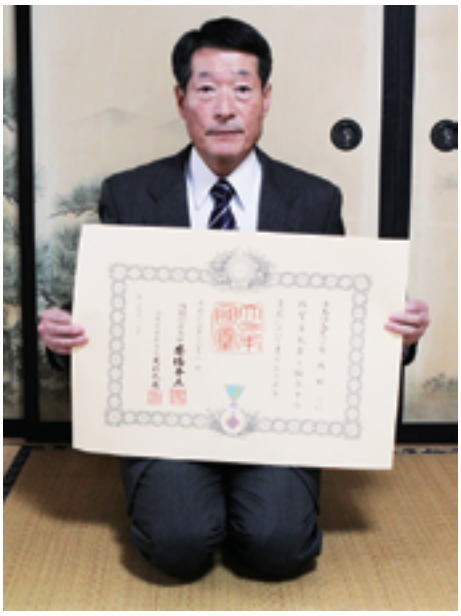
秋の叙勲　瑞宝双光章／学校保健功労

佐藤　雄幸さん（６区）

平成25年秋の叙勲において、学校医の佐藤雄幸さんが、学校保健功労として、瑞宝双光章を受賞されました。

佐藤さんは、昭和35年に地元大江町に医療法人佐藤内科を開業し、昭和38年本郷東小学校の学校医としての活動を皮切りに、旧七軒中学校、旧七軒西小学校および道海分校の学校医として活動され、現在も左沢小学校と藤田の丘分校の学校医として活動されています。規模の大きな学校から小規模校まで多岐にわたって健康診断を実施し、これまで数多くの子どもたちの健やかな成長に貢献をされてきました。

佐藤さんは「家内と共に皇居にて、天皇陛下に拝謁の名誉とともにお言葉を賜り、感激の極みでした。これも一重に、町民の皆さまの長年にわたる温かいご支援の賜物です。深く感謝申し上げます」と今回の受賞の喜びを話してくださいました。



危険業務従事者叙勲　瑞宝単光章／防衛功労

菊地　昭一さん（深沢）

自衛官や消防士など、危険が伴う業務で功績のあった方に贈られる危険業務従事者叙勲において、元自衛官の菊地昭一さんが、防衛功労として、瑞宝単光章を受章されました。

菊地さんは、昭和46年３月に陸上自衛隊に入隊以来、平成18年８月に定年退職されるまで、34年の長きにわたり勤務され、国防と公共のために尽力されました。航空科に所属し、主に航空機やヘリコプターの整備を担当された菊地さんは、何度も機体の点検およびチェックをおこない、万全の体制での運用出来るよう心がけたそうです。また、大蔵村で発生した土砂崩れや奥尻島で津波による被害が発生した際には災害救助隊として現地に赴き、被災地の復興に努力されました。

菊地さんは「内示をいただいた時は驚きました。この賞に恥じないようにこれからも生活、仕事の両面で頑張っていきたいです」と話しくださいました。

善意いただきました

このたび、佐藤雄幸さん（6区）より町に対して教育振興に役立ててほしいと、現金200万円の寄付をいただきました。

町では、今後の教育振興のために有効に活用させていただきます。

このたび、㈱きらやか銀行より町に対して、旧銀行建物および土地を寄付いただきました。これは、昭和11年に建設された旧きらやか銀行大江支店の土地（約900㎡）と建物（鉄骨2階建、床面積約300㎡）で、左沢中央通商店街の一画で昭和27年から銀行として利用されたものです。支店の統合などにより廃止された後は、イベントや交流の場として活用されてきました。

11月25日には㈱きらやか銀行の粟野学代表取締役頭取が大江町役場を訪問され、渡邉町長に目録を手渡しました。粟野頭取は「建物の雰囲気や周りの町並み、支店廃止後の活用のされ方を考えた時、大江町に寄付することを決めました。地元の振興のために、大江町で活用いただければ大変ありがたいです」と話してくれました。

今回の寄付を受けて、町では今後地元の意見を聞き活用方法について検討していく予定です。

▲渡邉町長に目録を手渡す粟野学頭取(右)

議会 town council

12月定例会

大江町議会第4回定例会が12月4日から6日までの会期で開かれました。今定例会では、一般会計の補正予算や条例改正案などが審議され、原案どおり可決・承認されました。

冒頭に渡邉町長から行政報告がありましたので、その主な内容を紹介します。

行政報告

7・18豪雨災害復旧状況

復旧については国からの補助の関係で、災害査定を受けながら進めております。道路などの土木施設災害は61件で、査定額が2億5942万3千円となりました。今年度は19箇所復旧工事を予定しています。

農林関係については、農地4地区、農業用施設が22箇所で、査定額が8956万3千円。林道が3路線8カ所で、査定額が4960万2千円となりました。今年度予定している工事は農地3地区、農業用施設13箇所、林道1箇所です。

残りの工事は、来年度以降場所や時期を考慮し計画的に進めていきます。

大江町鳥獣被害防止対策協議会の設立

近年、過疎化、高齢化などにより耕作放棄地の増加や森林の荒廃が進み、野生鳥獣の生息域が拡大しています。

これに伴い中山間地を中心に農産物の被害が増加傾向にあり、大江町でも農作物への被害報告が多く寄せられています。このような状況から10月28日に大江町鳥獣被害防止対策協議会を設立しました。今後は県などの意見も聞きながら鳥獣被害防止計画の策定や狩猟者への助成などを進めていく予定です。

旧七軒西小学校校舎の利活用

これまで、町の各分野の職員で検討を重ね、これに地区住民からも意見をいただき校舎の利活用に向けた話し合いを進めてきました。その結果、校舎2階を中心に宿泊できるように改修し、1階を各種の活動に利用できるよう進めることとなりました。

今後は、利活用に向け校舎が、関連法令の基準を満たした安心な施設として利用できるよう改修を進めます。

補正予算

平成25年度大江町一般会計の補正予算は、歳入歳出にそれぞれ9630万円を追加し、総額は52億1080万円となりました。

あなたの地域の情報をどしどしお寄せください！　役場総務課情報システム係（☎６２－２１８７）

11/16 自然の恵みに感謝しながら

～緑の少年団自然観察会～

団員みんなで自然について学び合う、緑の少年団自然観察会が11月16日、大山自然公園で開催されました。

観察会では、初めに５月に緑の少年団で植菌した原木なめこの収穫をおこないました。なめこはその年の気象によってなかなか大きくならないこともありますが、今年はまずまずの出来で、子どもたちは互いに協力しながら夢中になって収穫していました。その後、山形県みどり推進機構の上野亘さん案内のもと、葉っぱの採取がおこなわれ、子どもたちは鮮やかに色づいたコナラやコハウチワカエデなど、気に入った葉っぱを使ってしおり作りに挑戦しました。最後は今年取れたなめこをふんだんに使ったなめこ汁作りをおこないました。子どもたちは自然の恵みに感謝しながら何杯もおかわりをしていました。

▶５月に植菌した原木なめこを協力して採りました（写真左）
▶園内から拾ってきた葉を使ったしおり作り（写真右）

11/24 競技の枠を超えて楽しく交流

～大江町スポーツ少年団総合交歓大会～

町内のスポーツ少年団が集まり交流を深める総合交歓大会が11月24日に開催され、会場となった体育センターには、町内４つのスポーツ少年団の団員とその保護者約90名が集まりました。

大会では始めに、「目玉焼きにかけるもの」などユニークな質問によるグループ作りや、２つで１つになる模様が描かれた用紙を使用したペア作りを通して、お互いの交流を深めました。

続いて輪投げや手つなぎ鬼、タグラグビーなどがおこなわれ、参加した子どもたちは、ほかのスポーツ少年団の団員と協力しながら楽しい時間を過ごしていました。

11/27 高校生によるまちづくり

～左沢高校「町づくり・町さがし」パネルディスカッション～

大江町の景観をまちづくりにつなげようと11月27日、左沢高校でパネルディスカッションが開催されました。

同校では大江町教育委員会が10月に開催した「文化的景観まちづくりワークショップ」に24名の生徒が参加し、実際にまち歩きをしながら、景観をどのようにまちづくりに活用していけばよいかを考えてきました。

パネルディスカッションでは、生徒が東北芸術工科大学の志村直愛教授指導の下まとめあげた「いいね！ガイドブック」「町の知識を深める左沢検定」など５つの提案がありました。また、それらの提案に対しさらに具体的な案を全校生に募集したところ500を超える案が寄せられ、その一部も発表されました。

司会進行を務めた志村教授は「高校生が重要文化的を活かした町づくりを議論したのは全国でも初めてです。提案の中には大人では思いつかないような案もありました。これを機会に町のさまざまな取り組みに参加してもらえたらうれしい」と話されました。

地元住民からも大江町についての知識を深めてもらおうと提案された左沢検定▶

12/8 米のおいしさがあふれる出来に

～地酒ほんのり桜色味祭の宴～

地酒「大江錦初しぼり」をいち早く堪能できる“地酒ほんのり桜色「味祭の宴」”が12月８日、町民ふれあい会館で開催され、約200名が参加しました。

大江錦は、地元で採れた酒米と朝日連峰の湧水を使用して造られ、その飲み口のよさから町内外で高い人気を誇っています。中でも「初しぼり」はその年の酒米を使った新酒で特に人気があります。酒造元の千代寿虎屋株式会社の大沼寿洋代表取締役は「大江町の米のおいしさが日本酒としての甘さ、うまさとしてあふれでている」と今年の出来具合を高く評価しました。

会場では、「初しぼり」とともに大江町商工会女性部による地元の食材を生かした料理の提供や、山形舞妓の優雅な舞なども披露され、参加者は心ゆくまで大江の地酒を堪能しました。

12/14 世界にひとつだけのメダルを制作

～左沢小興味しんしん事業～

子どもの興味の扉を開くため、さまざまな取り組みをおこなっている、左沢小興味しんしん委員会の事業が12月14日、中央公民館で開催されました。

今回は、金属（すず）を溶かしてオリジナルメダルを作ることに挑戦。日本鋳造（ちゅうぞう）工学会山形支部の指導の下、メダルの原型となるワックスにデザインを描き入れたり、金属を流し込む鋳型（いがた）づくりを体験したりしました。子どもたちは、思い思いにデザインし、300度以上の温度でドロドロに溶けた金属が、世界にひとつだけのオリジナルメダルになる過程を楽しく学んでいました。そして完成した重厚なメダルをピカピカに磨きながら、興奮した様子で目を輝かせていました。

▲溶けて流れる金属を興味深く見つめる子どもたち

第1回 大江町文化的景観絵画コンクール

景観への愛着を深め、町の魅力を再発見してもらおうと、町内小中学生を対象とした大江町文化的景観絵画コンクールが開催されました。

今回は最優秀賞2作品をはじめ23の作品が各賞に選ばれました。作品は今後、各種パンフレットなどに活用される予定です。

★優秀賞

左沢小学校　6年　伊藤　夕衣
〃　柏倉　彩乃
〃　公平　直希
〃　西田　飛香
本郷東小学校6年　林　直輝
本郷東小学校5年　伊澤　昇悟
大江中学校3年　後藤　瑞貴
大江中学校2年　伊藤　友奈
〃　高橋　瀬名
〃　山口　優
大江中学校1年　柏倉　永遠

★佳作

左沢小学校6年　太田　将平
〃　菊地　嶺花
〃　杉沼　圭悟
〃　鈴木　郁人
〃　清野　凜香
〃　髙橋　優花
本郷東小学校6年　布施　蓮
〃　柏倉　乃亜
〃　柏倉　ゆい
〃　結城　しずく

最優秀賞　左沢小学校６年　菊地美結

最優秀賞　大江中学校２年　渡辺ひより

◆わだいの交差点に掲載できなかった情報の一部は、町ホームページの「フォトおおえ」に写真を掲載していますのでご覧ください

広報おおえ
平成26年1月号（No.635）
2014年1月1日発行

リレー随想／《第79回》

パッチワーク愛好会　関根　君子

昔の農家の昼の食事

昔の農家の食事は、野良仕事から戻ってきた父親が、食事の用意が出来ているお膳の前に座らないかぎり勝手に始めることができなかった。

大きな板の鍋敷きに、鉄のお汁鍋とご飯を炊いた釜をそのまま置き、その周りにそれぞれ個人のお膳を置いて食事を始めるのであった。

お膳の置く場所は、常に厳しく決まっていて、祖母、父、母、兄、姉、妹と位の順序があり、その場所を犯すことは絶対にありえなかった。

父親の「いただきます」などというしゃれたあいさつは無く、ただ黙って一番初めにごはん茶碗を父親が母親に差し出し、母親がごはんとお汁を装うと位の順序でそれぞれが装い食事を始めるのであった。

食事中は黙っていなければならないというのが我が家の家風で、食事をしながら話をすると父親に怒られた。父親だけが「このお汁しょっぺえな」とかつぶやくだけだった。

食事が終わると「お湯」と母親に言って、お湯を茶碗に注いでもらい、そのお湯で茶碗とお汁碗の内側だけを丁寧にたくあんなどの漬物で洗い、そのお湯を最後に飲んで、お膳をそれぞれが戸棚にしまうのであった。

昼近くになって腹が空くと母親が野良仕事からいつ戻ってくるのかと待ち遠しかった。母親が食事の用意をするために一足早く戻ってくると「まさよし、山崎さえって水くんでこえ」と言われ、家から歩いて5分位の山崎の湧水のある井戸まで、冷たい水をくみにやらされた。家に戻ると水がめに冷たい水をざあーとあけるのであった。すると「まさよし、おどつぁば呼びえってこえ」と言われ、今の山崎団地のある田んぼのあぜ道を畑のある裏山に向かって歩いて、声の届きそうな途中まで行き「おどつぁ～ままだは～」と大きな声で山に向かって叫ぶと、父親が「お～い」とこちらに向かって歩いて来るのが見えた。父親は家に着くとひしゃくで水がめからまず一杯冷たい水を飲んだ。

地元の学校を卒業すると金の卵と言われ、集団就職列車が盛んな頃に東京へ出ていった。

あれから55年、事情により定年退職を機に実家に戻り暮らしているが、大勢で食事をした昔が懐かしい。今は私だけになってしまった。

大江町混声合唱団エコーで毎週練習しているが、指揮者の佐藤美喜子先生から「発声する時はもっと顔と身体を使って遠い相手に届くように歌うのですよ」と指導を受ける時がある。その時は「おどつぁ～ままだは～」と山に向かって大きな声で父親に届くように必死で叫んだ昔のことが思い出される。

今でもたまに酔って夜中に家に戻った時、実家の裏に行って山に向かい「おどつぁ～ままだは～」と昔のことを思い出しながら叫ぶ時がある。事情が分からない隣近所の人々に迷惑をかけているのではないかと申し訳なく思っている。

確かに今は便利で豊かになったが、家族一同が揃って食事をすることが少なくなっているようである。これも時代の流れであろうか。

（下北山　木村正義）

編集後記

皆さまあけましておめでとうございます。新春座談会に参加していただいた若者の皆さんは、私が取材した先でがんばって町おこし活動をされていた方々です。日頃見慣れている大江町ですが、取材先では必ず新たな出会いと発見がありました。その中で感じたことは、町おこしに年齢は関係ないということです。私も皆さんの活動を見習いながら今年も広報を通じてさまざまな情報をお届けしたいと思います。今年もよろしくお願い致します。（山家雄志）

お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
富沢	淀谷 理希（りき）	男	等・和子
下北山	佐竹 唯（ゆい）	女	洋介・志穂

ご結婚おめでとう

区名・出身地名	氏名
3区	金山 暁
天童市	松田 優子
蛍水	井上 悠
山辺町	多田 晴菜
月が丘	鈴木 孝拓
貫見	玉羽 友香

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
沢口	大沼 秋子	(86)
9区	高取雄太郎	(79)
3区	林 イチ子	(91)
小見	伊藤みよし	(97)
三合田	阿部 昭弘	(58)
柳川平	松田 忠男	(91)
貫見	玉羽かづ子	(76)

戸籍のまど

11月21日～12月15日受付分

※掲載を希望しない場合は、届け出の際にお申し出ください。

編集・発行／大江町役場総務課
印刷・製本／寒河江印刷㈱
山形県西村山郡大江町大字左沢882-1
http://www.town.oe.yamagata.jp/　E-mail:info@town.oe.yamagata.jp